第 20 回日本都市計画学会中部支部研究発表会の報告

2009 年 10 月 31 日　会場　豊橋商工会議所会議室

第２０回日本都市計画学会中部支部の研究発表会ならびにシンポジウム、見学会が、平成 21 年 10 月 31 日に豊橋商工会議所４階会議室、３階ホールにおいて開催された。午前中の研究発表会、また午後のシンポジウム、見学会には一般市民を含め、大勢の出席者（研究発表会：約 60 名、シンポジウム：約 70 名、見学会：約 30 名）が参加して、活発な質疑応答が行われた。

1．午前の部（10：00～12：00）・・・研究発表会

研究発表の件数は、昨年度より少し少ないが、合計 14 編の研究発表が行われた。

研究発表の内容は、第１セッション（計画プロセス）「企業都市の発展と定住対策～豊田市の県営保見住宅を事例として～」（本多弘司）、「四大都市圏の高齢者住宅の供給実態の比較」（伊藤誠、他）、「コミュニティ内のコンフリクト発生から計画策定までのプロセスに関する考察～歴史ある中心市街地商店街のコミュニティをモデルとして～」（藤澤徹、他）、第２セッション（都市計画課題「韓国におけるグリーンベルト解除後の実態に関する考察～済州市を事例として～」（島田善昭、三村泰広、他）、「自治体の土地区画整理事業による市街地拡大の実態と課題に関する研究」（瀬戸一哉、他）、「都市計画法３４条１１号条例による効果と課題に関する研究」（藤原郁恵、他）、「岐阜県飛騨市神岡地区の都市計画課題の構造化」（山下貴史、他）、第３セッション（交通行動・交通意識）「ガソリン価格の変化が個人の交通行動に与える影響」（小塚みすず）、「過疎地域におけるバス交通に対する住民意識の基礎的分析」（中平恭之、他）、「非幹線道路における自転車・歩行者事故の分析～ＰＴデータと土地利用データを用いて～」（松尾幸二郎、他）、第４セッション（自然再生・地域活性化・県境問題）「高速道路からの自然再生に関する二、三の考察」（脇本幹雄、他）、「鳳来インターチェンジ（仮称）開設に伴う地域活性化に向けた調査」（古賀元也、他）、「ＥＵにおける国際連携組織ＥＵＲＥＧＩＯ」に関する調査報告」（大貝彰、他）、「県境部の過疎集落の再生に向けての課題～福井県大野市の集落を対象として～」（李泰榮、他）であり、種々であった。

2．午後の部（13：00～17：00）

・・・シンポジウム、見学会

午後からは、『豊橋市中心市街地のこれまでとこれから』と題してシンポジウムが開催され、その後中心市街地活性化を目的に建てられた「こども未来館」、「豊橋駅前デッキ」、「ココラフロント」を見学した。

支部長（浦山益郎：三重大学教授）、大会実行委員長（広畠康裕（豊橋技術科学大学教授）の挨拶のあと、引き続き基調講演「豊橋市中心市街地の現状と方向性」（野崎智文：豊橋市副市長）、報告「豊橋市中心市街地活性化基本計画の概要」（野尻典夫：豊橋市都心活性課）が行われ、そのあと、大貝彰（豊橋技術科学大学教授）のコーディネートにより、パネルディスカッションが行われた。

パネルディスカッションでは、まず「豊橋市の中心市街地がどのように衰退し、その後どのように活性化されてきたのか」、平成元年ごろから取り組んできたルネサンス計画の概要などが紹介された。具体的には、電線類の地中化、歩行者空間の環境整備、空き店舗対策や共通駐車場券の導入、また都心居住を進めるためのマンション誘致など、中心市街地活性化に取り組んできたことの報告があった。しかし、これらのことは他の同規模の中核市においても行われている取り組みであり、「豊橋らしさ」を中心市街地活性化基本計画の中のどこにもとめるのか、ということが大きな課題である、という意見が出され、白熱した議論がなされた。

写真　午後のシンポジウム

(文責：高山純一(金沢大学))